

ヘルシンキにて日本学術振興会フィンランド同窓会10周年・日本フィンランド国交樹立100周年記念セミナーを開催



集合写真

12月12日（木）、ヘルシンキのフィンランド・アカデミーにて、本学欧州ヘルシンキオフィスと日本学術振興会フィンランド同窓会の共催で「日本学術振興会フィンランド同窓会10周年・日本フィンランド国交樹立100周年記念セミナー」を開催しました。本学からは、欧州ヘルシンキオフィス田畑伸一郎所長（スラブ・ユーラシア研究センター教授）と岡部越大同オフィス副所長が参加しました。

午前の部では、「日本学術振興会フィンランド同窓会10周年記念式典」が行われ、村田 隆在フィンランド日本国特命全権大使と家 泰弘日本学術振興会理事、津本忠治日本学術振興会ストックホルム研究連絡センター長、田畑欧州ヘルシンキオフィス所長、フィンランド・アカデミーのヘイッキ・マンニラ理事長による祝辞がありました。祝辞に続き、日本学術振興会フィンランド同窓会初代会長のマツ・ロース博士と前会長を務められたクリスティーナ・ヨキネン博士により、同窓会の歴史が紹介されました。

午後の部では、「日本・フィンランド国交樹立100周年記念セミナー」が行われ、日本・フィンランド100周年親善大使を務める照明デザイナーの石井幹子氏からのビデオ・メッセージ、同じく照明デザイナーである石井アカリ・リーサ氏による特別講演（パリからのスカイプ中継）の後、二国間の共

同研究に長年携わっている4名の研究者による講演が行われました。本学からは田畑所長が講演を行い、北極域研究を通じた本学とフィンランドの研究者・学術機関との共同研究、日本の北極域研究の展開と現状を紹介しました。出席者からは、北極域をめぐる中国・韓国との競合関係や、シベリアの住民の気候変動への反応などについて質問が出され、活発な意見交換が行われました。この他にも、アールト大学のマーリット・カルツピネン教授から、超電導研究分野での東京工業大学との長年の研究協力について紹介があ

りました。東京の産業技術総合研究所臨海副都心センターでAIとロボットを研究するヨキネン博士は、社会的・哲学的観点も交えつつ、現在進めているプロジェクトの紹介をされました。フィンランド気象学研究所にシニア研究員として勤務されている鶴田青希博士は、衛星による温室効果ガスの観測についてのフィンランド気象学研究所と日本との共同研究について発表されました。

セミナーは午前・午後の部合わせて70人ほどの出席者を集め、本学のパートナーを務めるヘルシンキ大学のリーッカ・ランシサルミ博士、東フィンランド大学のユッシ・ライネ准教授も出席し、本学と日本学術振興会を中心とした関係者で大変にぎわいました。

翌日には若宮健嗣外務副大臣を迎えての大使館主催のレセプションが行われ、日本・フィンランド国交樹立100年の記念の年が成功裏に締めくくられたことが祝われました。

（国際部国際連携課）



村田大使の祝辞



家理事の祝辞



田畑所長による祝辞



田畑所長の講演